

備えよう、南海トラフ地震

新たな南海トラフ地震の 被害予測調査結果が発表されました

愛知県
ホームページ



県では、国の被害想定の見直しを踏まえ、約12年ぶりに被害予測を見直しました。今回の見直しは、最新の基礎データを反映するとともに、国の調査と整合を図りつつ、学術的知見や2024年能登半島地震などの近年の地震災害における被害状況を踏まえた内容となっています。

●問い合わせ
防災課
内線348

東浦町の 被害予測

過去地震最大モデル

南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで規模の大きいもの(宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5地震)を重ね合わせたモデル

		今回 (2026年6月)	前回 (2014年5月)
最大震度		6強	6強
最大津波高		2.7m	2.9m
最短津波到達時間		84分	85分
死者数		約50名	約40名
全壊・焼失棟数		約1,400棟	約1,300棟
想定 避難者数	1日後	約9,900人	約8,400人
	1週間後	約13,000人	約12,000人
	1か月後	約7,400人	約5,700人

理論上最大モデル

南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波を想定したモデル

	今回 (2026年6月)	前回 (2014年5月)
最大震度	7	7
最大津波高 (陸側ケース)	2.7m	2.8m
最短津波到達時間	83分	83分
死者数	約200名	約300名
全壊・焼失棟数	約4,900棟	約5,100棟

今回公表された被害想定は、愛知県が2014年に公表した前回の想定と比べ、大きな変更はありませんでした。町としては、災害リスクを正しく理解していただくとともに、一人ひとりが備える「自助」と地域で支え合う「共助」の意識を高め、いざという時に「地域で命を守る行動」につなげていくことが重要であると考えています。引き続き、町民の「自助」による備えを促進するとともに、防災マップの更新や避難所環境の充実、近年の災害の教訓を踏まえた防災・減災対策を推進し、災害に強いまちづくりに取り組んでいきます。

新たに

「総合子育て支援センター(うららん)」を 指定福祉避難所に指定！

●指定福祉避難所とは

災害時に自宅での避難生活が困難となった要配慮者(高齢者や障がい者、妊産婦など、避難生活において特別な配慮を必要とする方)のために開設される避難所のこと

●受入れ対象者 次のいずれかを満たす方

- ・一般避難所での生活が困難な要配慮者およびその家族(支援者含む)
- ・「指定福祉避難所(直接避難可能) 11施設」の受入

総合子育て支援センター(うららん)を新たに指定福祉避難所として指定しました。これにより、町内の公共施設における指定福祉避難所は、勤労福祉会館と合わせて2か所となります。

れ対象者のうち、定員超過などの理由により受入れができなかった方

●開設条件

一般避難所への要配慮者の避難状況などを踏まえ、開設が必要であると判断したとき
※施設の被災状況や定員超過などの理由により、受入れができない場合があります。

●問い合わせ 防災課 内線348

指定福祉
避難所など
詳細はコチラ

